

新規創造・事業拡大セミナー 「あたらしいアタマ」がヒツヨウです

日時：平成25年11月8日（金）15：00～17：06

場所：新口イダル四万十ホテル 2階 四万十

主催：四万十市雇用創造促進協議会

内容：

15:00～16:35 講座 「あたらしいアタマがヒツヨウです」

○講師：梅原真（うめばらまこと） デザイナー

○プロフィール：

- ・高知市生まれのデザイナー。1972年RKCプロダクション入社。
- ・1980年梅原デザイン事務所主宰。デザインを一次産業再生のために使いたいとの思いで「土佐一本釣り・薫焼きたたき」をプロデュース。以降「砂漠美術館」や「四万十ドラマ」など多数プロデュース。特に「しまんと新聞バッグ」とヒノキオイルの「香りビジネス」は、2013クールジャパンに採択され、世界に展開、商品化。
- ・デザインはモンダイ解決のソフトであると考え「一次産業 × デザイン = ニッポンの風景」という方程式で活動する。
- ・著書：「ニッポンの風景を作りなおせ」「おまんのモノサシ持ちや！」「ソリストの思考術」など多数。



<講座は15時からでしたが、別件で会場入りに遅刻し15：45頃からのメモです>

○もじゃくりバッグ

- ・新聞バッグコンテストに、仙台の方が応募してきた。
- ・まず、新聞紙をグシャグシャ（もじゃくり）にしてから、バッグを作る。新聞紙のシワシワの質感が面白い。
- ・仮設住宅の避難所には集会スペースがあり、1時間で3個ぐらい作れる。仕事が無かった仮設住宅の人たちにとって、時給1,000円程度の収入になる。**仮設住宅での仕事となる。**
- ・この**販売ルートとしては、高知銀行さんのノベルティグッズ**。全体には新聞の記事しか見えない。裏に高知銀行のシールがついているだけ。

○ツクルシゴトツクル

- ・今年の3月11日からスタート、「**しまんと新聞バッグプロジェクト**」、ヨーロッパで展開中
- ・ユニバーサルでありながら、四万十のローカルから生まれた → エコであり → シンプルで説明が要らない → クリエイティブ → コネクト → ユニバーサル

○De Morgan社

- ・「40万部の新聞社の新聞に、あなたのデザインが載りますよ」とデザイナーを勧誘

- ・「あなたの新聞に、著名なデザイナーがデザインを載せてくれますよ」と新聞社を勧誘
- ・毎週土曜日に掲載され、4週にわたり展開
- ・あちらの新聞はスタンドで販売されるので、「バッグが作れる」とのPRで新聞を販売。
- ・バッグの作り方のビデオをインターネットで公開。
- ・経産省の「クール・ジャパン」に採用された。
- ・新聞バッグコンクール

○あたらしいアタマ

- ・「新しいアタマ」を持たないと、夢がない。知恵を出しましょう。
- ・アタマの中で考えることは、平等。都会や先進国に限られた事ではない。地方でも、発展途上国でも、その違いはない、格差はない。
- ・脳みそ どう考えるか 四万十のピンポイントであっても、世界につながっていく。
- ・岩手県が「新聞バッグで復興につなぎたい」と新聞バッグコンテストを東北で開催したい → 公民館、文化センターと、話が小さくなっていく
- ・「TOUHO KU」の名前は世界に通用する。ニューヨークで新聞バッグコンテスト(第1回)をやって、そして日本(岩手県)(第2回)に帰ってこよう。
- ・ニューヨークで開かれるコンテストのポスターには、サンマが入る新聞バッグを作り、岩手のサンマを入れた写真をデザイン。
- ・柔らかい頭で考えるには**練習が必要**。
- ・「路上観察学会」の人たちに、赤岡町に来てもらって、町中を見てもらった。
- ・どういう目線で町を観察し、考察するか。デジカメのない時代だったので、写真を撮ってスライドを現像するので翌日にプレゼン。
- ・「追放の家」の張り紙：実は、「飲酒運転追放の家」の飲酒運転の印刷の文字が、太陽の陽で退色して消えていた。
- ・**ユーモアが必要**
- ・犬の予防接種のシールが8つ並んだ戸の下から、本物の犬が顔をのぞかしている。
- ・青色の「赤」：「赤岡病院」の字が青色で書かれている
- ・「山崎一郎商店」：小学生が撮ってきた写真 撮影者のコメントは「やまざきいちろうさんは、どこにおるがやろうか」

○お金を稼ぐ

- ・愛知県が一番で、高知県が最低
- ・それをあげるのもいいが、**その地にある「絶対価値」をキープしながら、そのことがお金を稼いでいかねばならない。**

○3倍の売上げ

- ・山形新幹線 東京駅から山形までの往復 乗務員(車内販売のアテンド)

- ・この人は、他の乗務員の販売額の3倍を販売する。
 - ①販売台車を押していくのではなく、**引いていく**。押すことばかりではなく、引くことを考えること。
 - ②「コーヒーください」のお客様のオーダーに、「あったげーのけ、つめてーのけ」と、**山形弁で接遇**する。方言で話すのに金は要らない。
- ・あたらしいアタマ 販売台車を引いてお客さんと顔が合う、山形弁を聞きたくてまわりのお客さんも買う。
- ・山形新幹線の中で「**経済を3倍**」にしている。
- ・しゃかりきに販売台車を押して車内をまわっても、販売はこの人の3分の1。

○闇の祭り

- ・赤岡町 10年前に行った
- ・「**闇の祭り**」 闇の中で屏風をみる祭り。 なにに、街頭や照明が点いた町中で・・・
- ・街頭を消し、提灯はやめた方がいいのでは 江戸時代の明るさで祭りをやろう。
- ・街頭を消すまでに4年かかった。街頭を消すには、スイッチがないので、照明ポールを分解して消さなければならなかった。
- ・マスコミが「闇の祭り」と記事を書き、**お客さんが10倍**も集まった。
- ・本質的なモノは、田舎か都会かなんて関係なく、世界に出ていける。

- ・販売台車を引くという発明で、経済を3倍にした。
- ・「四万十」という財産がある。
- ・新聞バッグが東北を応援し、世界に出て行っている。

- ・リゾート開発はもういいのではないの、Tシャツだけぶら下げておいたらいいんじゃないの。
- ・昔は沈下橋を壊していこうとしていた。
- ・今は、中村駅からタクシーを使って沈下橋を見に行く時代。
- ・あの当時は、「大きな立派な橋を造ってくれ」と建設省に要望に行くのが村長の仕事だったが、今は「沈下橋は飛び込めるから良いなあ」となった。
- ・「大事なモノは何か」に立ち戻っていないので、まだ日本は変。

- ・あたらしいアタマは、引くこと、対面すること それが大事だと言うことに気づいた。

16:35~17:06 質疑

男性1：昨年、仕事の関係で四万十に引っ越してきた。道の駅だから新聞バッグをはじめて見た。そばには新聞紙を丸めて棒状にした肩たたきなども並んでいて、貧乏くさい印象だった。今日の話聞き、新聞の記事や広告がオリジナルな自分だけのデザインのバッグになることなど、再認識させてもらった。

梅原：日本ならではの、「折り紙」と「もったいない」が組み合わさっているのが「新聞バッグ」。

日本の新聞で、仮設住宅で作っていると、もの悲しいが、英字新聞だと格好いい。逆に、海外では漢字の評価が高い。

男性2：小京都、中村について

梅原：今日は、土佐山田に宿を取っていたが、人身事故で車が止まり、高知止まりになるというので、車に乗り換えてあわててきたので、小京都をまだ見てない。「小京都」というメッセージを出していますか？

男性2：「中村」ということを残すことが小京都だと思う。南海地震で、小京都らしい建物は残っていないが、食べもの、幡多弁の優しさ、鰹のタタキも塩タタキで、中村（小京都）があった。しかし今は、四万十にかき消されている。

梅原：インターネットで列車の時間を調べようと「四万十」と入力しても出てこない。中村市のままが良かったなあ、中村は小京都とセットだったろうに。JR中村駅というときに、「中村」の名が新鮮だった。

男性2：香美市になり土佐山田の名が無くなった。

梅原：ホテルのフロントでのチェックインでも、「香美市」には愛着がない。フランスには6万ぐらいの村があり、隣の村とは一緒にならない、一緒にしないでくれという、個性がある。東和村もと が合併した。

男性3：梅原さんの話にかづけられる。行動に移すところが弱くて困っている。アドバイスを。

梅原：プロジェクトを偉い人の所に話しに行く。未開発国のノベルティ ティッシュペーパーとクラシック製品 ノベルティの担当が未開発国の商品が安いので採用していく。香りがついている板、これにノベルティとして目を付けてくれると、地元銀行だけでも4銀行ある。三菱UFJが未開発国の商品を使っているのなら、日本の地元のモノを使うと、日本の山が変わる。ノベルティグッズの担当者も「なるほど、そうですね」となる。60円のノベルティをあげるという概念を、日本のこと、地元のこと銀行は目を向けるべき ← これは信念を持って言えること

- ・「絶対そうでしょう」といえるところから始まっているので。
- ・赤岡町の祭りの例も、「そうでしょう」ということだから突き進められた。
- ・目を向けてもらえれば、新聞も山の話もある。
- ・銀行さんはお金を扱う商売なので、良いことにお金を使いませんか。
- ・「そんなキーホルダー、いらんでしょ」と気づいてもらわないと。

男性4：

- ・20年ぶりに梅原先生にお会いした。いろいろな先生のお話を聞くが、一番現実味を帯びた、地に着いた講演をされていると感じた。
- ・是非、幡多を助けてください。商売を初めて42年、年商11億、社員32名。全員が幡多の

社員。ホンダのディーラーを共同でやっている。

- ・ 共同のスーパーなどは、ほとんどは幡多外の会社で、ほとんど持ってかえられる。私の会社は全てを地元に戻元している。
- ・ 所得の低い幡多の所得を上げることを、先生の知恵をかりてやりたいと思って、この講演に参加した。
- ・ カツオのたたき 「これが一級品です」といってニンニクを出されている人がいない。カツオは一級品と言っているのに、ニンニクは中国産だったりする。
- ・ 四万十市は日本一の清流でなくなっている。それを、どういう施策で観光客を呼び戻すか。仁淀川が清流と放送され、観光関係はどう対処されているのか。
- ・ 地震津波の件 四国電力とかがいろいろな発表をしたことで、四万十市や足摺岬とかのパンフレットが都会では片づけられてしまったと聞いている。行政とかはどう対処しているのか。

女性1：ユーモアと愛は絶対必要。それにはトレーニングが必要と言われたが、どういう事を心がければいいか。

梅原：遺伝子に刷り込まれているので、遺伝子を呼び起こす。幡多も土壌がある。自分のユーモア遺伝子を呼び起こすように、モノを見ててください。

－ 以上 －

平成25年度厚生労働省受託事業

四万十市雇用創造促進協議会

全講座参加費無料! 11月の開催講座

11/7 販売流通促進講座～無印良品の商品開発について～

無印良品の商品開発事例についてお話しいたします。
商品開発に関わっている方、これから始めたい方お待ちしております。

成松 宏晃 講師 (株式会社良品計画)
プロフィール
京都府出身。筑波大学経済学部卒業後、西日本銀行(現西日本シティ銀行)入社。その後、株式会社良品計画入社。商品開発1、2年、企画調整期間担当、ネット事業、研修教材担当、菓子担当、衣類開発納入担当を経て現職に就く。

会場：四万十市立中央公民館 3F 研修室Ⅱ
時間：10:00～12:00(受付9:45～) 定員：20名

販売流通促進講座
【募集期間：平成25年10月15日(火)～10月31日(水)】

11/8 「あたらしいアタマ」がヒツヨウです。

「補助金」があっても「ユタカな発想」がなければ、なにも始まらない。
まちづくりのための「ユタカな発想」を養いませんか。

梅原 真 講師 (デザイナー)

プロフィール
京都生まれ、デザイナー。1972年KACプロダクション入社。1980年梅原デザイン事務所主宰。デザイナー→起業家再生のために使いたいとの思いで「土着一本釣り」活動されたとき「プロデューサー」に就任。担当は建設業、車(四万十ドック)など多数のプロデュース。特に「土産(新鮮なコブ)」と「七ノキオイル」の流通という方法で活動する。

会場：新ロイヤルホテル四万十 2階四万十
時間：15:00～16:30(受付14:45～) 定員：20名

新規創業・事業拡大セミナー
【募集期間：平成25年10月15日(火)～11月7日(火)】

11/11 まちで新たな仕事を作る

四万十の今に向けて新たな仕事をもとのように生み出していく。新たな時代の仕事の仕方に対応して、地元でいかに生きていくか。新たな仕事の作り方を学びましょう。

木下 斉 講師 (一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンス代表理事)

プロフィール
1962年、東京生まれ。早稲田大学政治経済学部経済学専攻卒業。一橋大学大学院商学研究科修士課程修了。経営学修士。高校1年の時から商店街活性化に取り組み京都府西宮市のプロジェクトに参加。2000年、高校時代に全国流通の共同出資会社である東信ネットワークを設立、社長に就任する。同年、新流通流通大賞を(財)革命社にて受賞。その後東信ネットワークの専任役員を務める。2013年、まちづくり会社を共同設立。

会場：四万十市商工会議所 3階大会議室
時間：13:00～15:00(受付12:45～) 定員：20名

販売流通促進講座
【募集期間：平成25年10月15日(火)～11月8日(金)】

11/13・14 高付加価値農産物生産計画・技術力向上研修

【1日目】14:00～17:00(受付13:45～) 会場：あくりっく研修センター
座 学「圃場に定植した野菜の生長過程、山下農園の事例」
【2日目】9:00～12:00(受付8:45～) 集合場所：あくりっく研修センター
実 地「冬野菜の定植と播種、サツマイモの収穫」
◎天候・圃場状況により内容が変更になる場合があります。
◎農作業のできる服装でお越しください。

定員：30名
山下 一穂 講師 (有機のがっこう「土佐自然塾」塾長)

プロフィール
全国有機農業推進委員会・NPO法人有機農業技術伝承・有機のがっこう「土佐自然塾」塾長を務める他、全国の地方自治体、産地団体、有機農業を研究されている団体などに研修指導など、様々なジャンルで講師を務め幅広く活動中。各種メディアでも数多く取り上げられている。

本講座は「雇用創出の継続活動」に認定されます。

【募集期間：平成25年10月15日(火)～11月12日(火)】